

—2016年度—

# 明日を生きる

## 子どもたちのために



一宮市小中学校PTA連絡協議会  
一宮市教職員組合

## はじめに

この度、保護者の皆様と先生方のご理解とご協力により、2016年度「明日を生きる子どもたちのために」を発売できる運びとなりました。

先日のリオデジャネイロオリンピックでは、連日のメダルラッシュに日本中が歓喜と感動に沸きました。その一方で、国内のニュースといえば異常気象による災害や、事件・事故などが毎日のように報道されております。子どもたちを取りまく環境も同様で、子どもが巻き込まれる事件・事故が増加し、凶悪化していると実感しております。もちろん、社会情勢や時代の変化等の影響もあると思いますが、私たちPTA連絡協議会は、学校・家庭・地域の連携を進め、そういった時代の大きな流れに流されることなく、大人たちが自ら研鑽を積むことで、子どもたちの健やかな成長を育む環境を、今まで以上に充実させていこうと考えております。

7月には、ファッションデザインセンターにて、2016年「健全育成の会」が行われました。「子どもたちのためにできること～伸ばしていこう 子どもの長所～」というテーマのもと、保護者代表2名と教師代表2名による、テーマに沿ったそれぞれの立場での考え方や、工夫などを発表していただきました。その後のグループ討議では、保護者と教師の熱心な意見交換が行われました。それぞれの立場での「子どもたちのためにできること」を話し合うことで、相互理解のみならず各々の見識を広めることができた、有意義な会となりました。

また、9月には一宮市民会館にて「一宮 母と女性教師の会・文化講演会」が開催されました。講師にアルピニストの野口健さんをお迎えし、「あきらめないこと、それが冒険だ」と題し、ご講演いただきました。最近では登山だけでなく、様々な分野で活躍されている野口さんですが、現在の多岐にわたる活動は、すべて登山と密接につながっており、強い信念のもとに活動されているということ、野口さんのお話から感じ取ることができました。また、エベレスト登頂のお話では、失敗があるからこそ成功があるという、野口さんのプラス思考的な価値観を感じることができました。「人生を振り返ったときに、51点を取れたら成功」とおっしゃられた野口さんの言葉は重く、日々常に成功や勝利を求める自分自身の考え方を改めるきっかけとなりました。

2016年度「明日を生きる子どもたちのために」では、『やる気』と題して小学生・中学生・保護者・教師のアンケートをもとにそれぞれの異なった立場の意見を取り入れ共有することで、子どもたちの『やる気』スイッチへのアプローチ方法が明確になったのではないのでしょうか。

最後に、家庭・学校・地域の皆様の日頃の活動に厚くお礼申し上げますとともに、さらなるご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年11月

一宮市小中学校PTA連絡協議会  
会長 戸松 稔 貴

# 目 次

## 明日を生きる子どもたちのために 『やる気』

### I 学校生活の中で

- ① 学校生活について ..... 1
- ② 授業について ..... 2～5

### II 家庭生活の中で

- ① 家庭生活について ..... 6
- ② 家庭での学習について ..... 7～8

### III 輝く明日に向かって

- ① 将来の夢・希望について ..... 9～10
- ② 将来に向かって ..... 11～12

#### <アンケート実施者>

☆小学生 ..... 小学5年生

☆中学生 ..... 中学2年生

☆保護者 ..... 小5・中2の保護者

☆教 師 ..... 小学校・中学校の教師

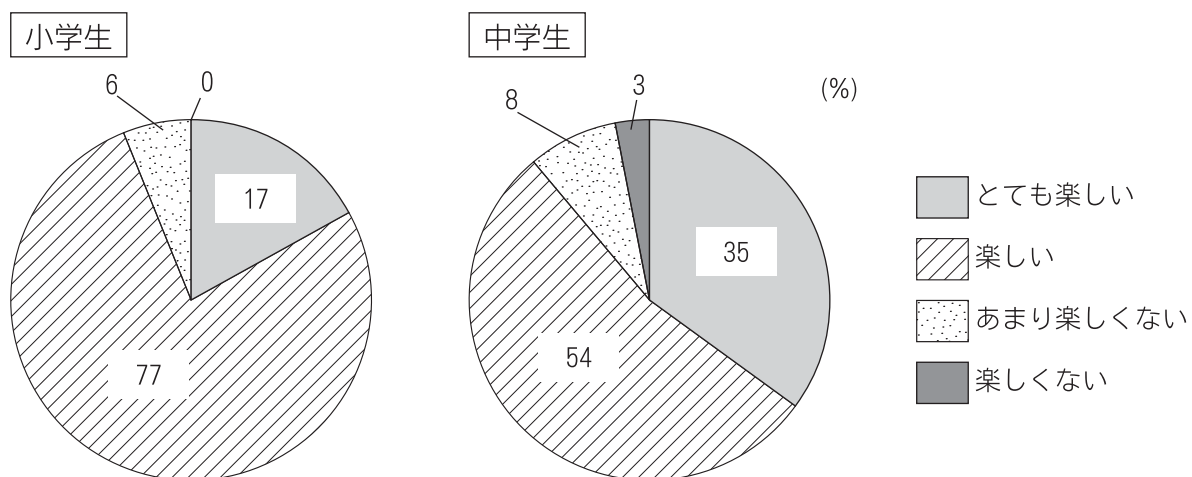


子どもたちは、どんなことにやる気を感じているのだろうか？

## I 学校生活の中で

### ① 学校生活について

◆ あなたは、学校生活が楽しいですか。(小学生・中学生)

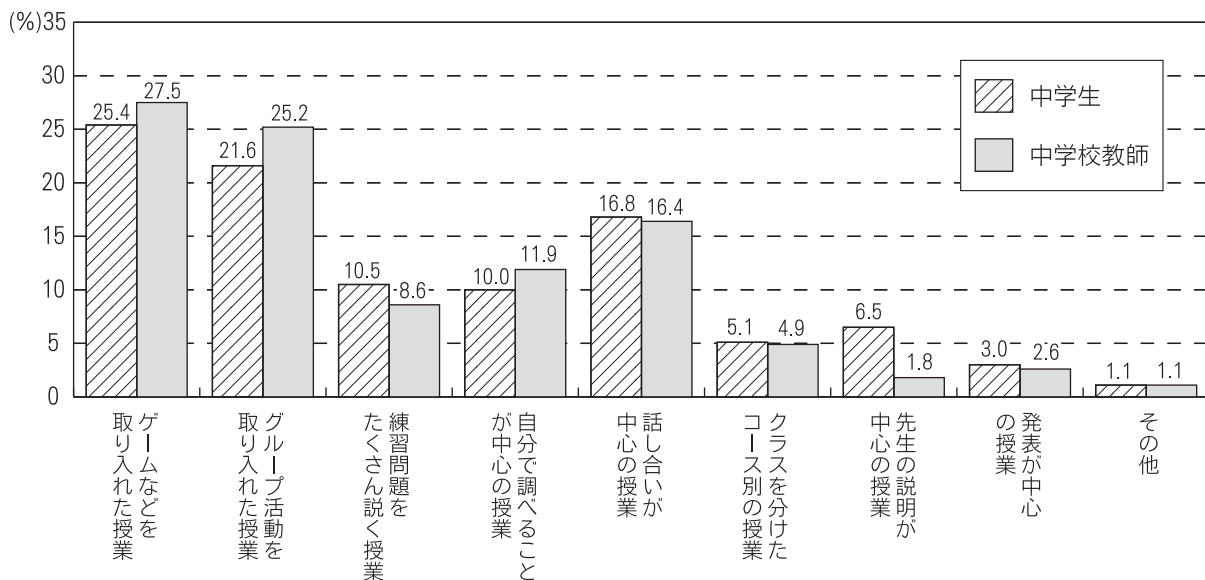
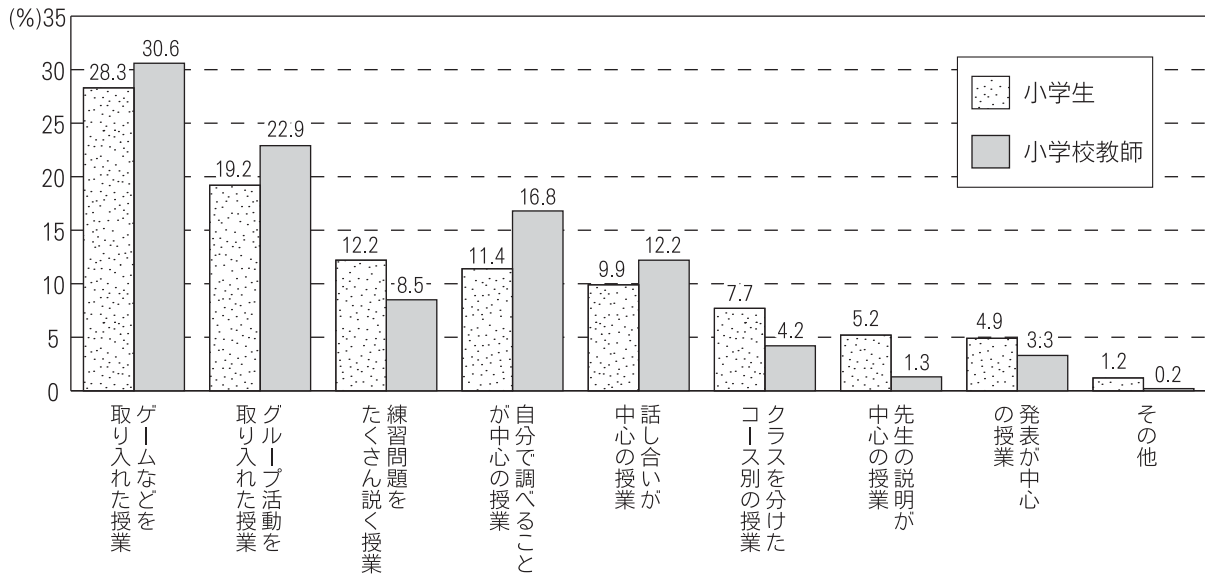


8割以上の子どもが、学校生活を楽しいと感じています。

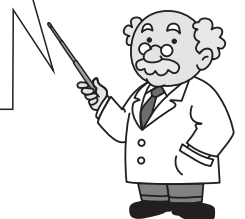


## ② 授業について

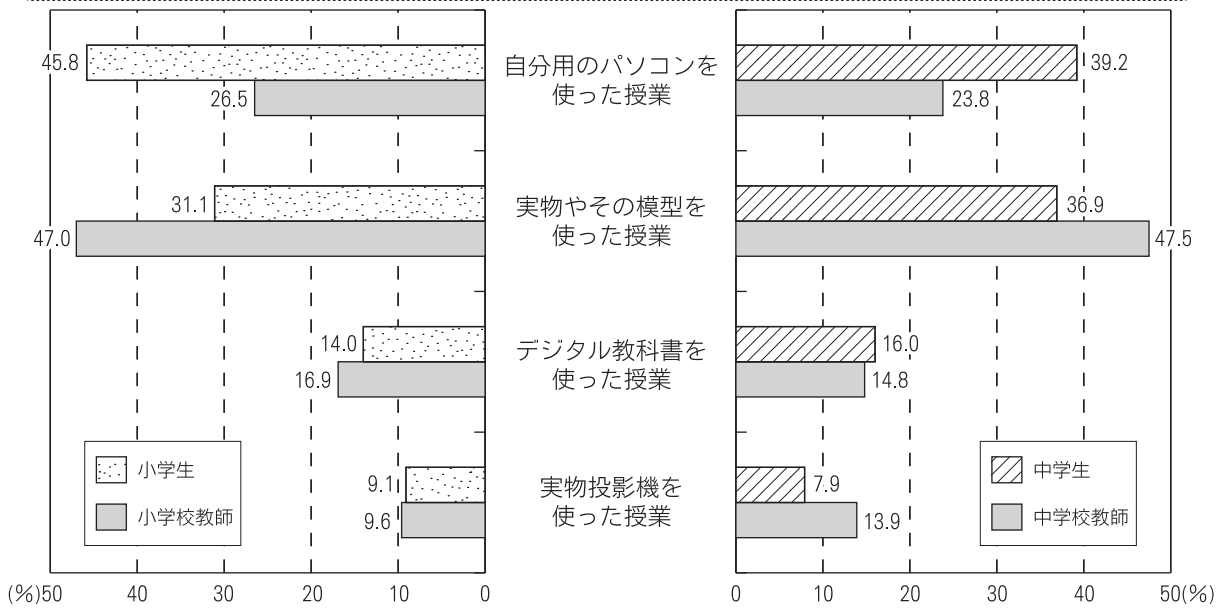
- ◆ あなたは、どんな授業を楽しんでいますか。（小学生・中学生 複数回答）
- ◆ 子どもは、どんな授業を楽しんでいると思いますか。（小学校・中学校教師 複数回答）



子どもたちは、「ゲームなどを取り入れた授業」や「グループ活動を取り入れた授業」を「楽しい」としており、教師も同じように思っています。また、小学生に比べて、「話し合いが中心の授業」を楽しんでいる中学生も増えてきます。授業者である教師には、子どもたちの発達の段階に応じた、活動内容の工夫が求められます。

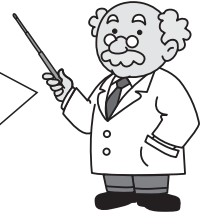


- ◆ あなたは、どんなものを使った授業が楽しいですか。(小学生・中学生 複数回答)
- ◆ 子どもは、どんなものを使った授業が楽しいと思いますか。(小学校・中学校教師 複数回答)

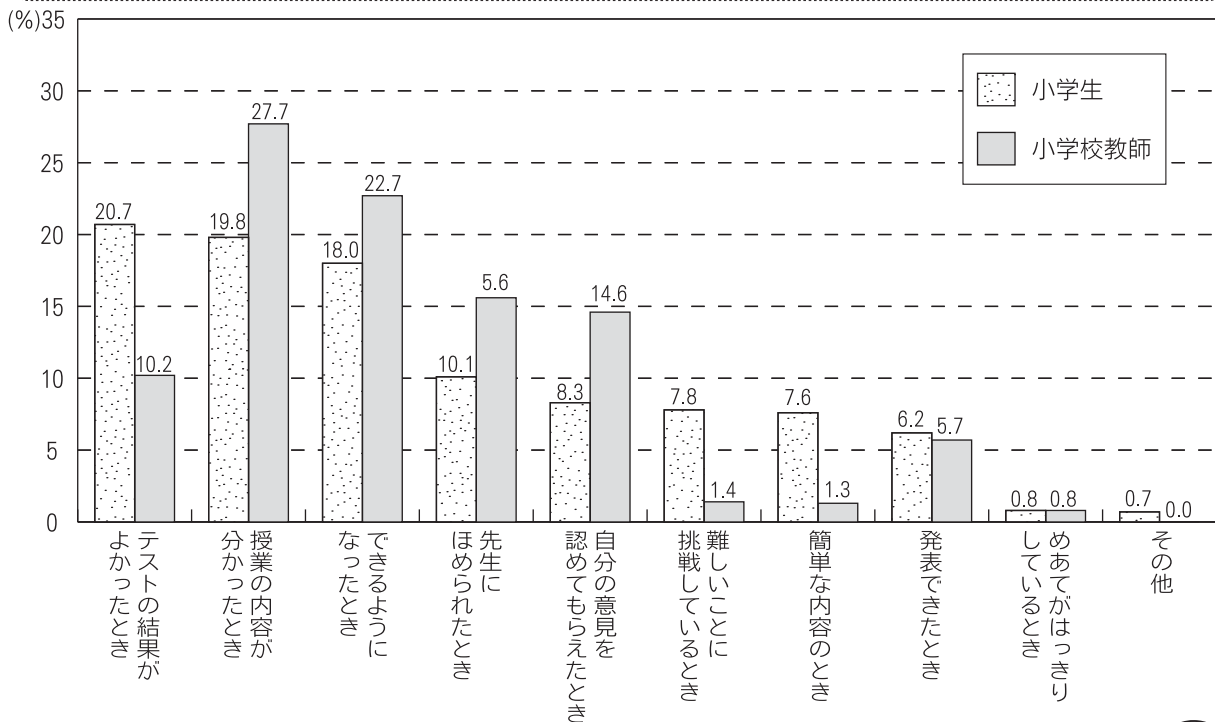


子どもも教師も、「自分用のパソコンを使った授業」や「実物やその模型を使った授業」が高い割合で楽しいと感じています。反対に、実物投影機やデジタル教科書の使用については、低い割合となりました。

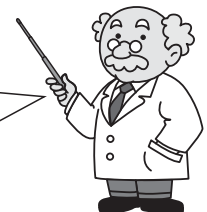
このことから、実際に触れたり動かしたりする活動を取り入れることで、子どものやる気を引き出すことができると考えられます。



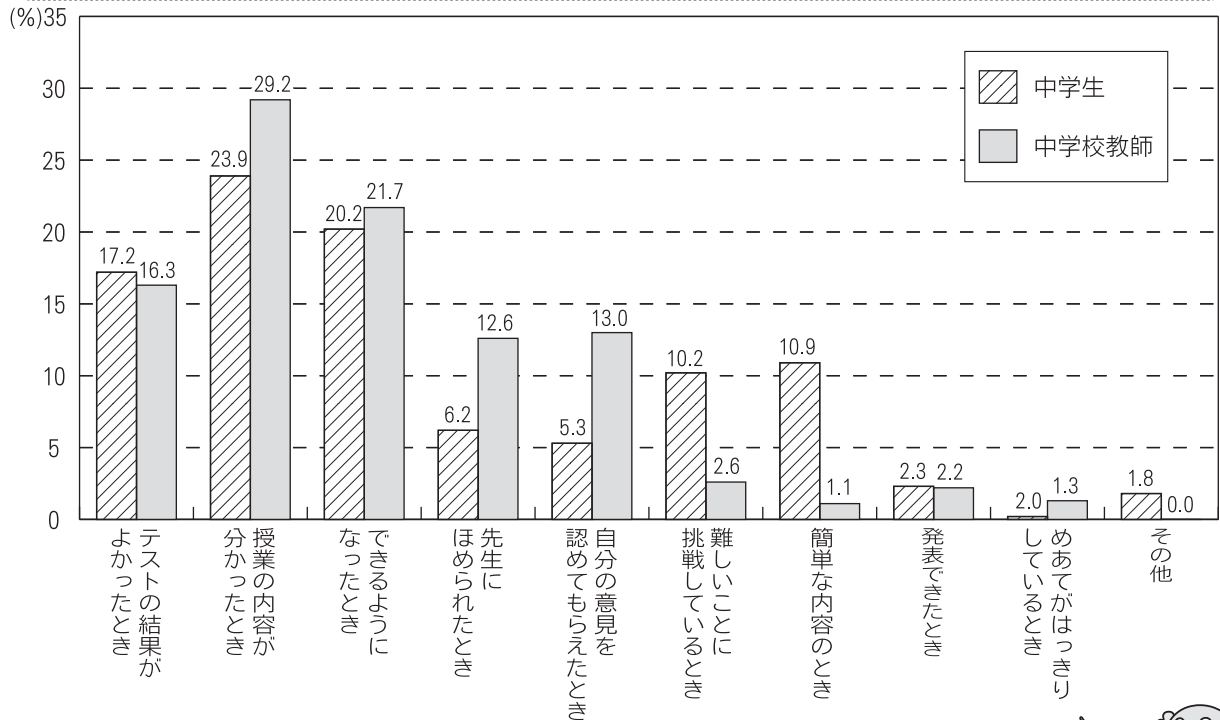
- ◆ あなたは、授業でどんなときにやる気が出ますか。(小学生 複数回答)
- ◆ 子どもは、授業でどんなときにやる気が出ると思いますか。(小学校教師 複数回答)



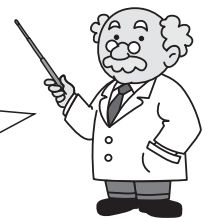
小学校では、子どもと教師の間で差が目立ちました。特に、教師が思っている以上に、子どもはテストの結果に敏感なようです。子どもが授業で学んだことを、テストの結果に反映できるように、教師はよく分かり、印象に残る授業をしていく必要があります。



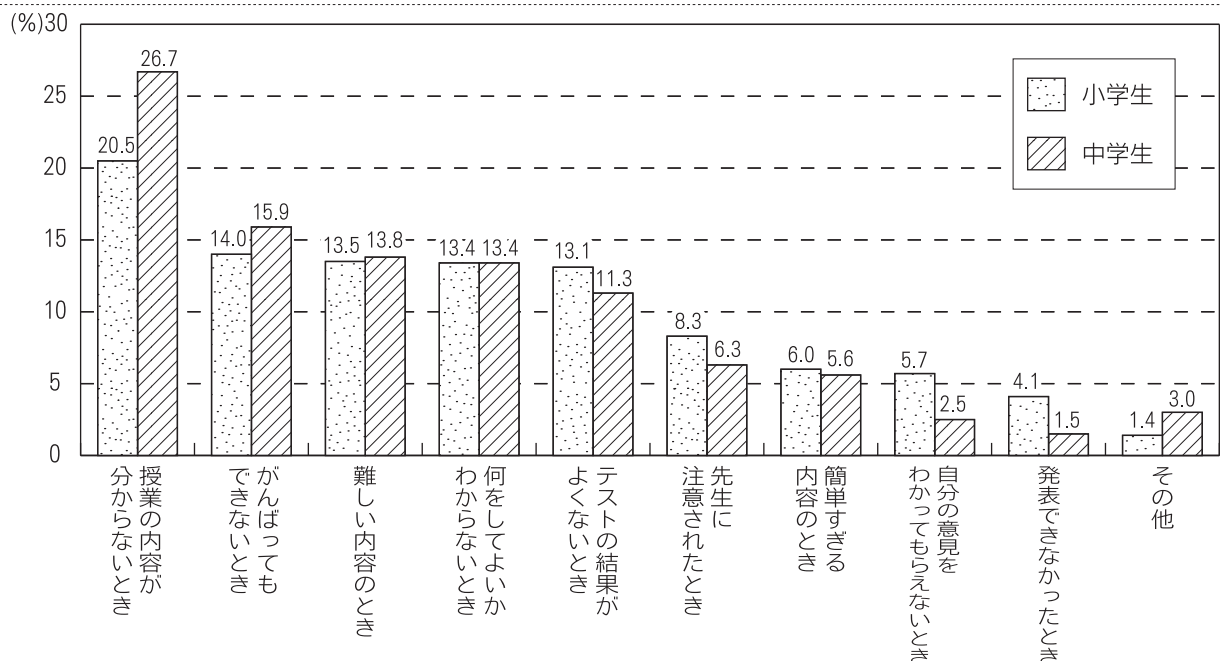
- ◆ あなたは、授業でどんなときにやる気が出ますか。(中学生 複数回答)
- ◆ 子どもは、授業でどんなときにやる気が出るとおもいますか。(中学校教師 複数回答)



中学生は、内容が分かったときやできるようになったとき、テストの結果がよかったときにやる気が出ると答えています。また、ほめられたり意見を認められたりしたときよりも、簡単な内容の学習に取り組んでいるときや難しいことに挑戦しているときにもやる気が出ると答えています。



- ◆ あなたが、授業でやる気が出ないのは、どんなときですか。(小学生・中学生 複数回答)



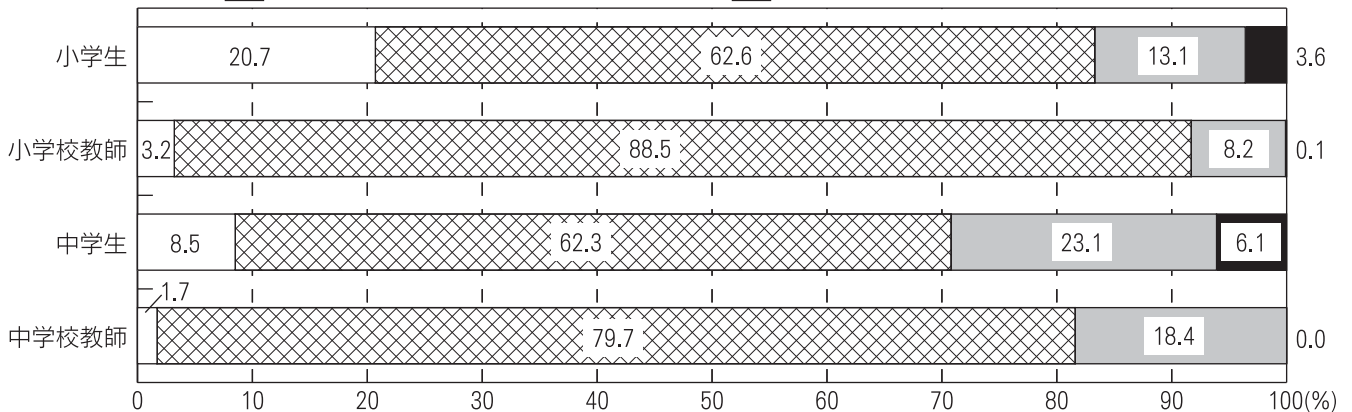
子どもたちは、「授業の内容がよくわからないとき」「難しい内容のとき」「何をしてもよく分からないとき」にやる気なくなるようです。よって、教師は的確な指示を心がけ、よく分かる授業を行う必要があります。

また、「がんばってもできないとき」も、子どもたちはやる気をなくしてしまうようなので、教師は子どもの様子をよく見て個別指導をし、少しでもできるようにしていくことも必要です。

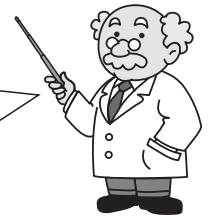


- ◆ あなたは、授業の内容を理解できていると思いますか。(小学生・中学生)
- ◆ 子どもは、授業の内容を理解できていると思いますか。(小学校・中学校教師)

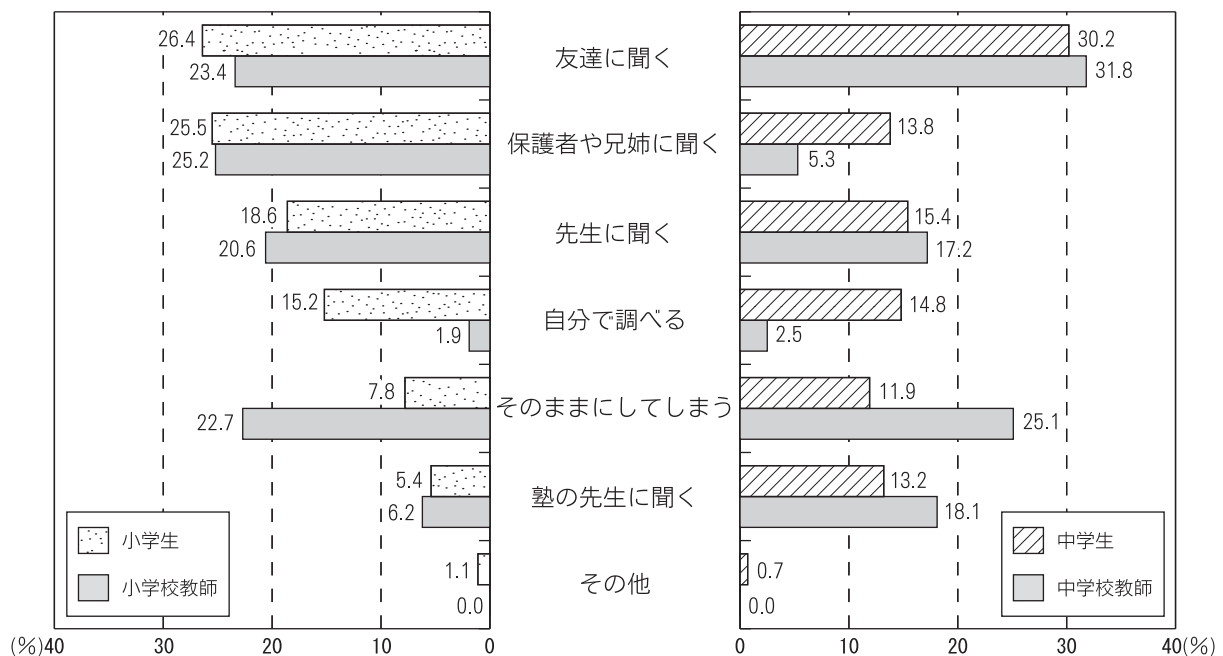
よく理解できていると思う
  だいたい理解できていると思う  
 あまり理解できていないと思う
  ほとんど理解できていないと思う



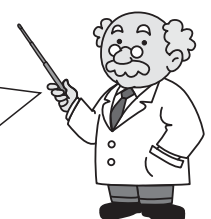
「あまり理解できていない」「ほとんど理解できていない」と答えた子どもを合わせると、小学生では約16.7%、中学生では約29.2%となります。これは、一クラスに5～10人は授業の内容が分からず、苦しんでいる子どもがいるという計算になります。教師は、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、子どもが自ら教師や友達などに質問できる雰囲気づくりをしていくとよいでしょう。



- ◆ あなたは、授業で理解できないことがあったとき、どうしますか。(小学生・中学生 複数回答)
- ◆ 子どもは、授業で理解できないことがあったとき、どうすると思いますか。(小学校・中学校教師 複数回答)



小学生ではわからないことがあったら保護者や兄姉に聞くと答える子どもが多く、家庭の力が子どものやる気を大きく左右しています。そのため、よりよい子どもたちの育成のため、家庭と連携していくことが中学生以上に大切です。また、わからないことを「そのままにしてしまう」と答えた子どもも小学生で7.8%、中学生で11.9%いました。このような子どもたちの存在に気が付き、声をかけていく必要があります。

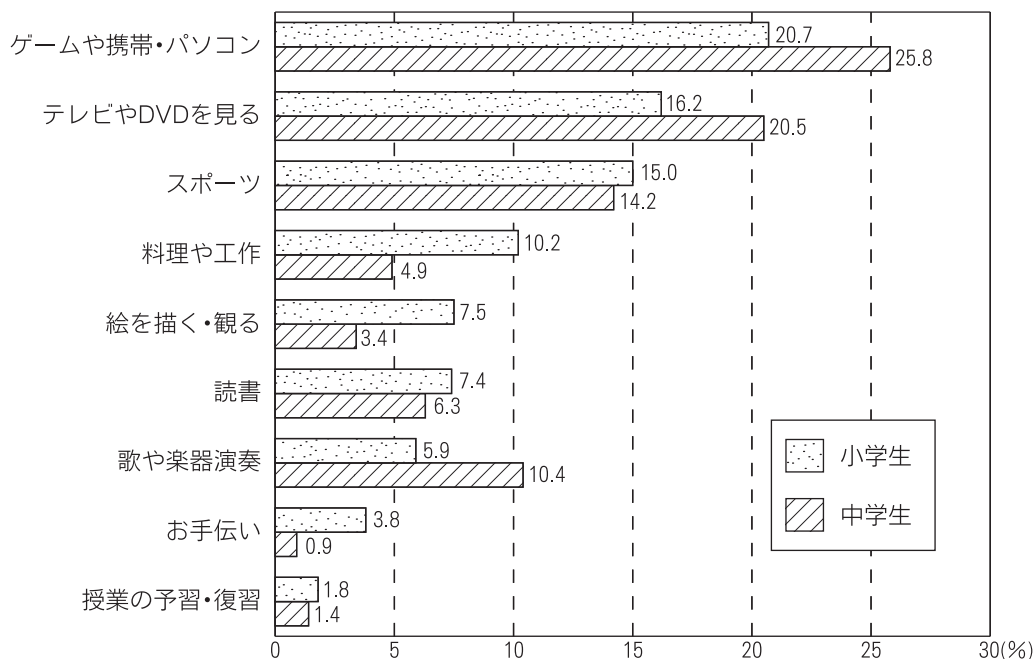




## Ⅱ 家庭生活の中で

### ① 家庭生活について

◆ あなたは、家庭でどのようなことをしているときが楽しいと感じますか。  
(小学生・中学生 複数回答)

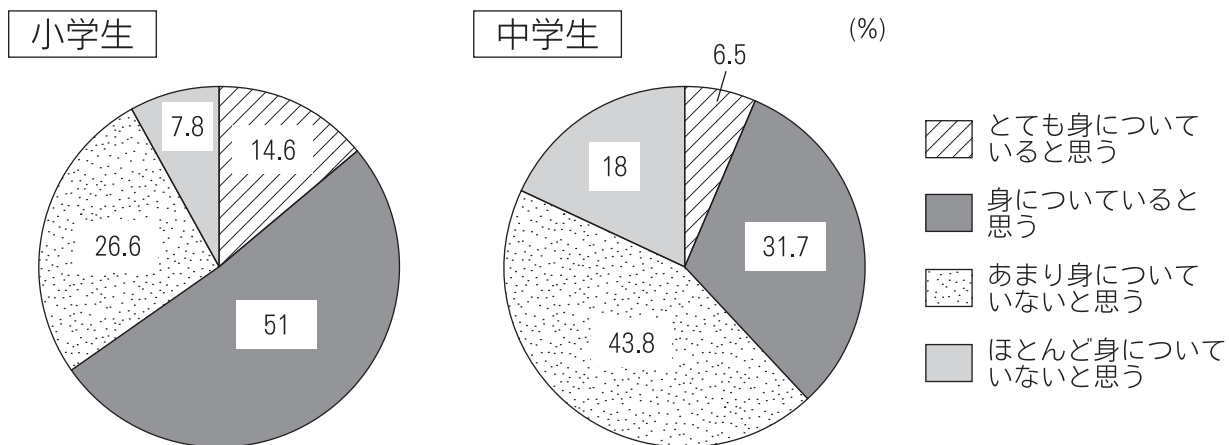


小学生・中学生共に「ゲームや携帯電話・パソコン」「テレビやDVDを見る」「スポーツ」の3つが高く、逆に「授業の予習・復習」といった学習に対しての意欲が低い結果になっています。

この章では子どもたちの家庭学習の実態を知り、考察することで家庭学習に「やる気」を持って取り組むにはどうすればよいかを考えていきます。



◆ あなたは、家庭で勉強する習慣が身についていると思いますか。(小学生・中学生)

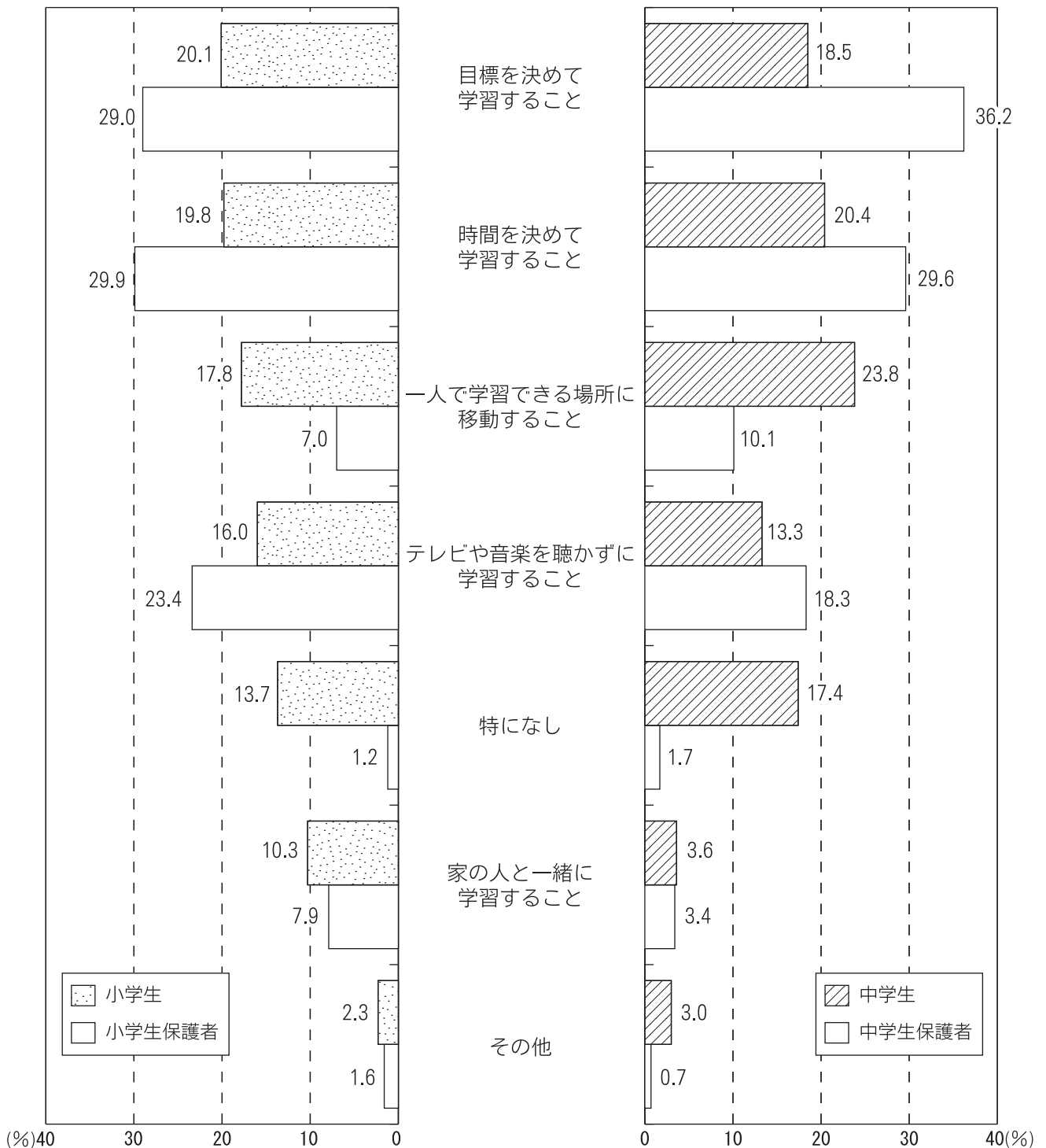


小学生の65.6%は、家庭で学習する習慣が身についていると言えます。しかし、中学生では38.2%と極端に低い割合です。中学生における、家庭学習の習慣化は今後の課題です。



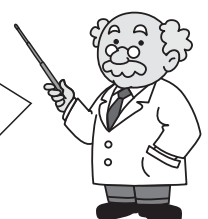
## ② 家庭での学習について

- ◆ あなたは、家庭で学習するとき、どのようなことを大切にしていますか。  
(小学生・中学生 複数回答)
- ◆ お子さんは、家庭で学習するとき、どのようなことを大切にしていると思いますか。  
(小学生・中学生保護者 複数回答)



小学生・中学生共に「時間を決めて学習すること」「テレビを見たり音楽を聴いたりせずに学習すること」「目標を決めて学習すること」など、学習する上での、自分なりの学習条件を整えることがやる気につながるようです。

また、保護者の意見では「一人で学習できる場所に移動すること」の割合は低いのにに対して、子どもたちは自分だけの集中できる環境を求めているという点にも着目したいです。

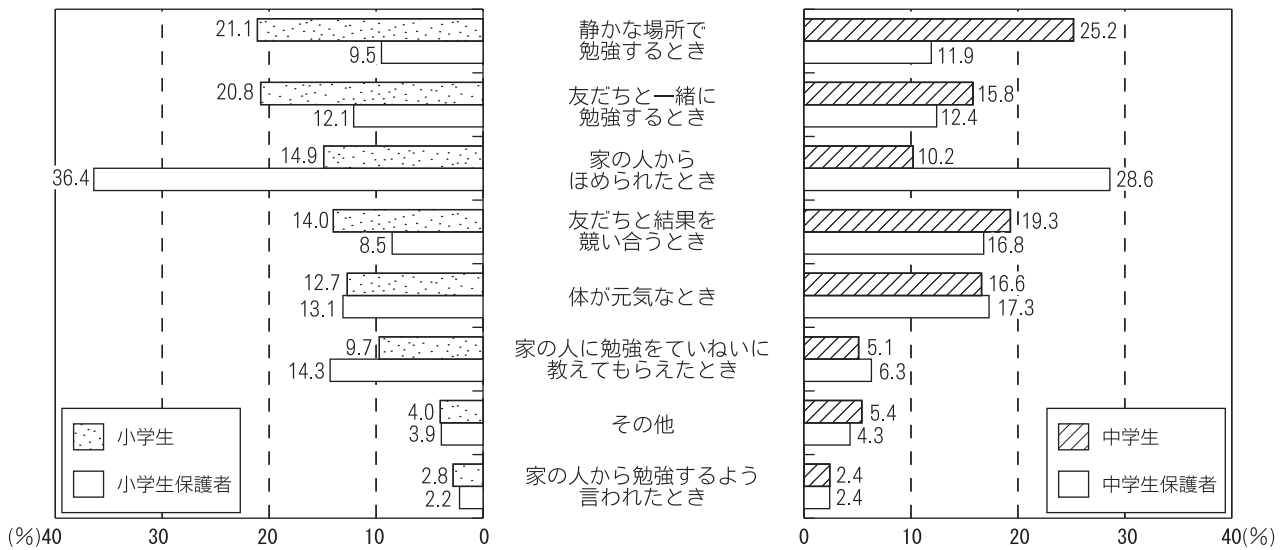


◆ あなたは、家庭で学習するとき、どんなときにやる気が出ますか。

(小学生・中学生 複数回答)

◆ お子さんは、家庭で学習するとき、どんなときにやる気が出るとお考えですか。

(小学生・中学生保護者 複数回答)

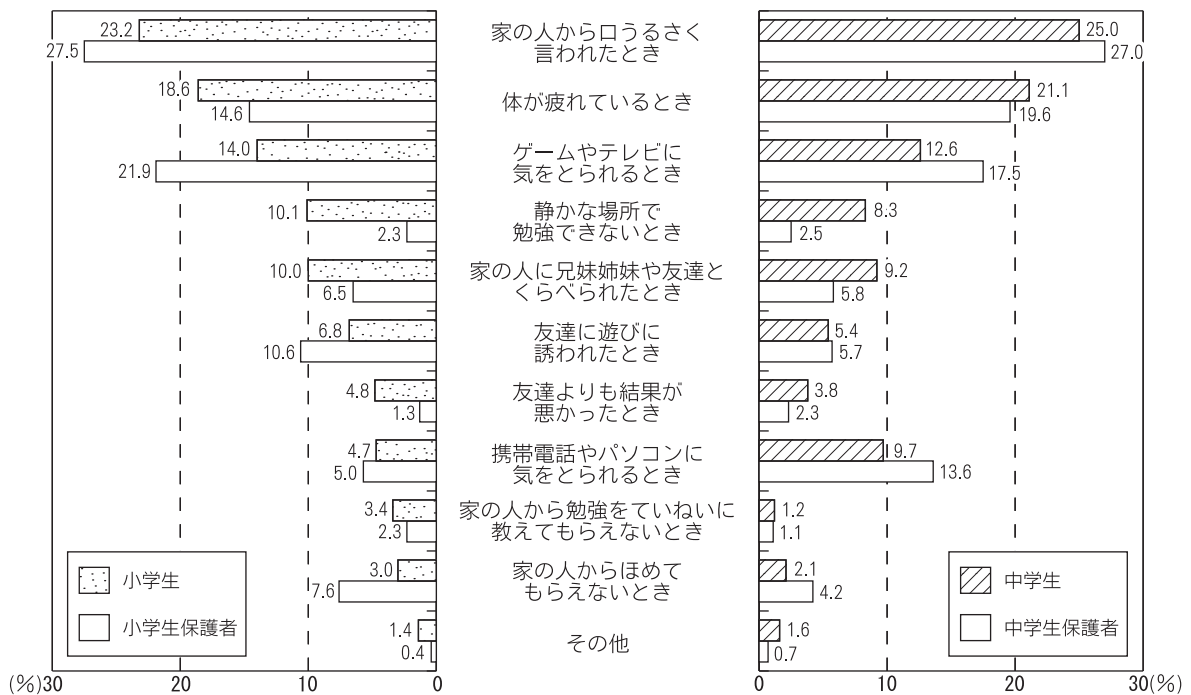


◆ あなたは、家庭で学習するとき、どんなときにやる気がなくなりますか。

(小学生・中学生 複数回答)

◆ お子さんは、家庭で学習するとき、どんなときにやる気がなくなるとお考えですか。

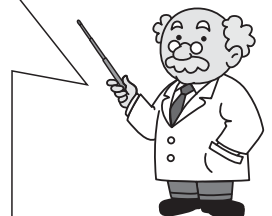
(小学生・中学生保護者 複数回答)



小学生も中学生も、「静かな場所で勉強するとき」「体が元気なとき」はやる気が出て、「静かな場所で勉強ができないとき」や「体が疲れているとき」など、環境が整わないときにはやる気がなくなるといった結果が出ており、子どもと保護者の考え方の大きな差が見られます。

また、保護者は「家の人からほめられたとき」にやる気が出ると考えていますが、子どもは、ほめられること自体はあまりやる気の向上につながっていないと考えています。一方、「家の人から口うるさく言われたとき」にやる気をなくすといった結果も出ています。

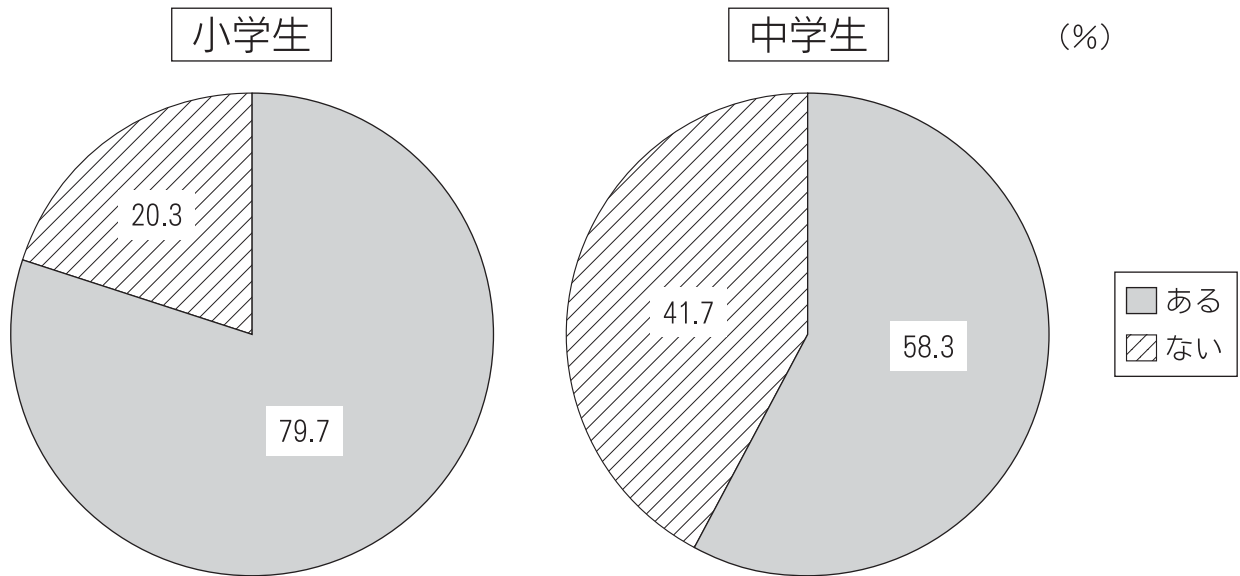
保護者は、子どもの出した結果のみにとられるネガティブな発言は避け、子どもの状態を把握し、子どもの頑張りを認め、勇気づけるなどの方法を考えていく必要があるのではないのでしょうか。



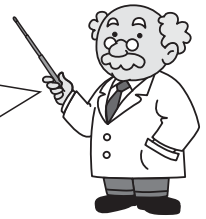
### Ⅲ 輝く明日に向かって

#### ① 将来の夢・希望について

◆ あなたには、将来かなえたい夢や目標がありますか。(小学生・中学生)

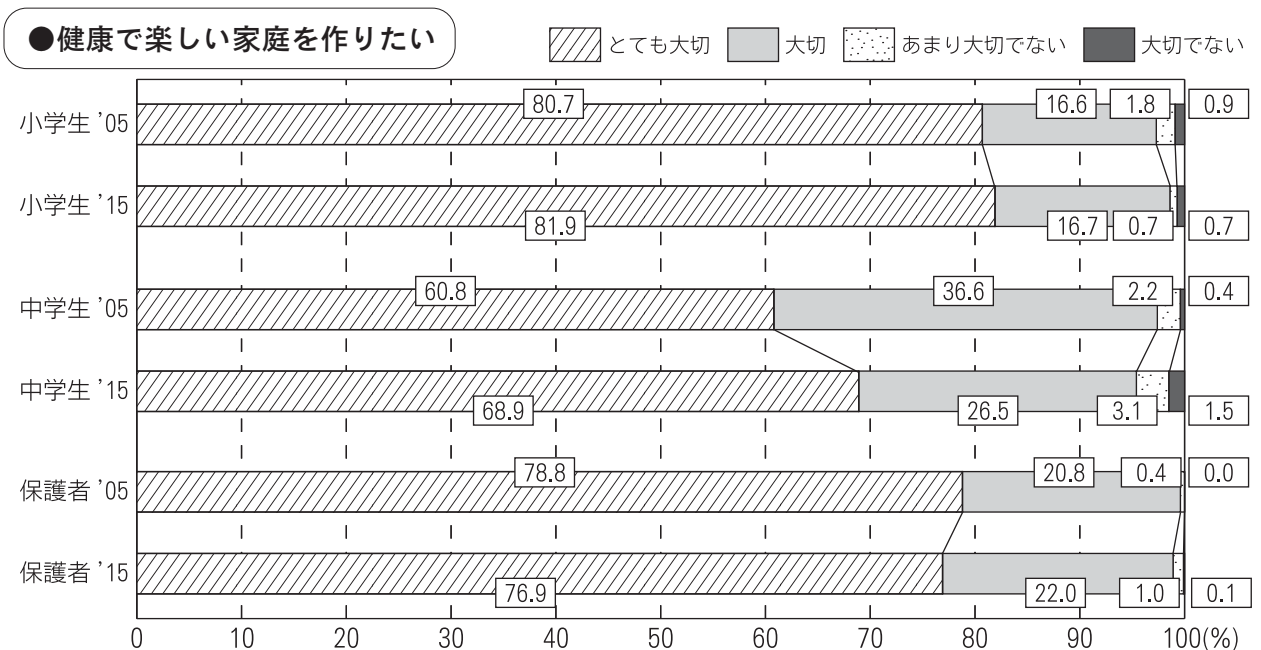


小学生は79.7%の子どもが「将来の夢がある」と答えています。しかし、中学生は、「ある」という答えの割合が60%以下になっています。中学生になると、物事を現実的に受け止めることができるようになるため、将来への不安が高まっていくようです。

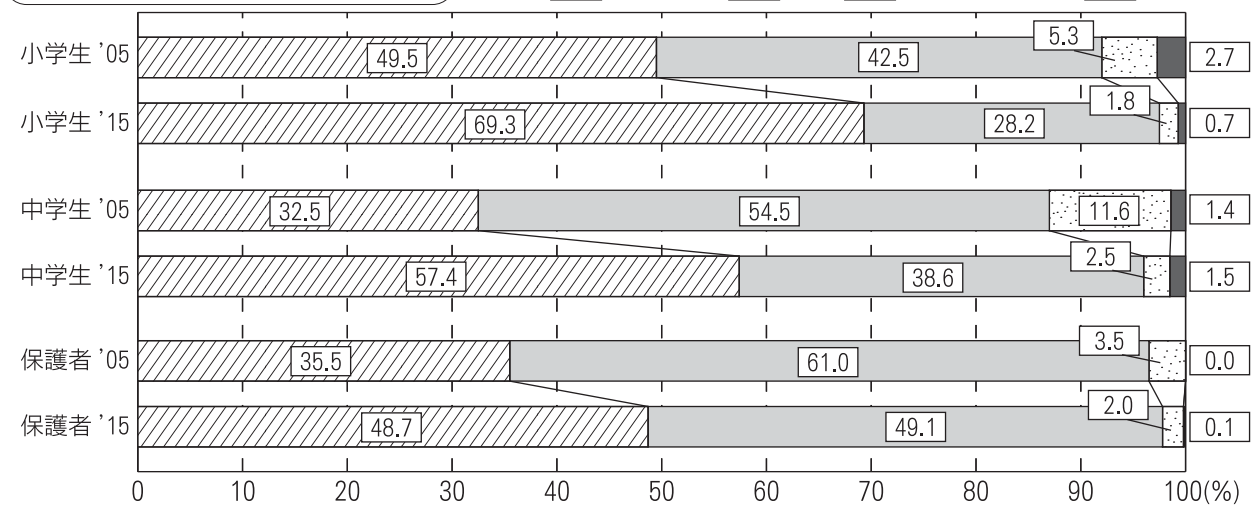


◆ あなたは、次のような希望を持つことが、将来どれくらい大切だと思いますか。(小学生・中学生)

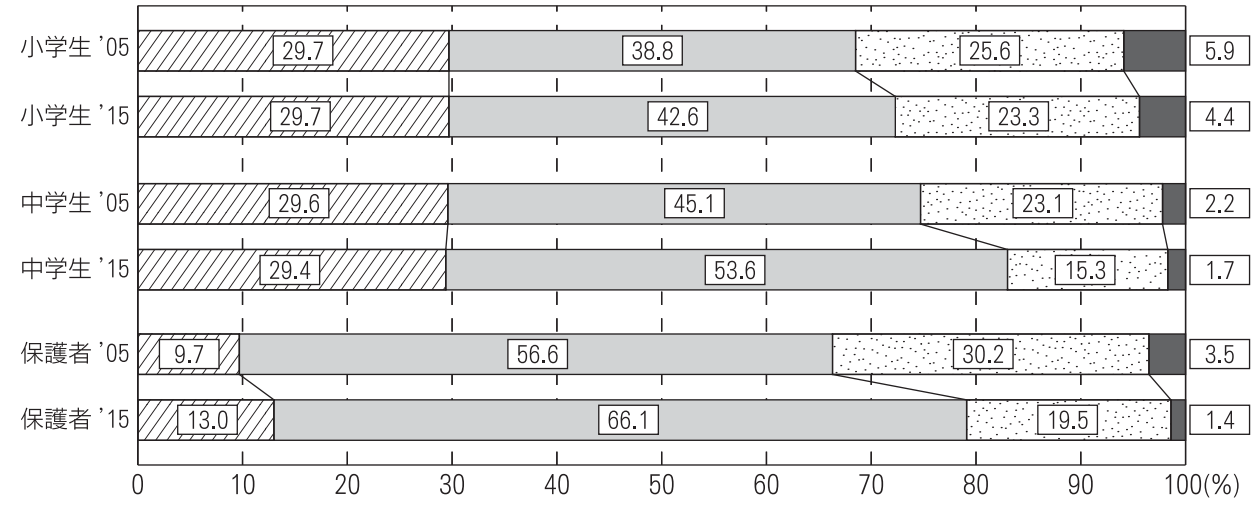
◆ お子さんにとって、次のような希望を持つことが、将来どれくらい大切だと思いますか。(小学生・中学生保護者)



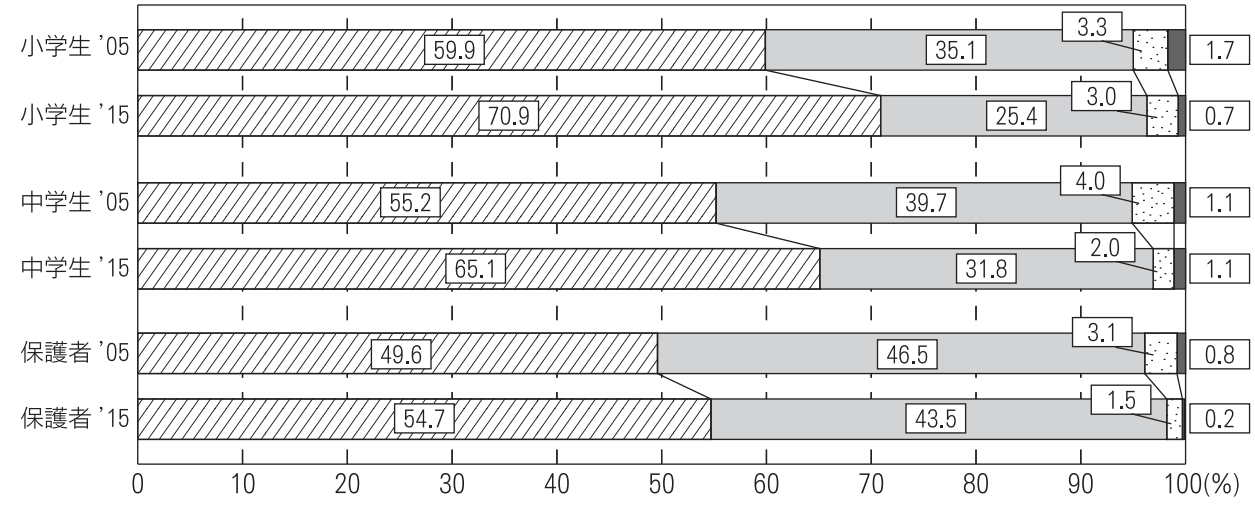
●社会や人のために役立ちたい



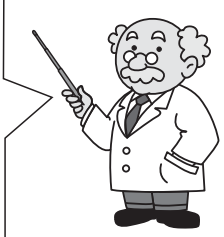
●自分の思ったとおりに生活したい



●やりがいのある仕事につきたい

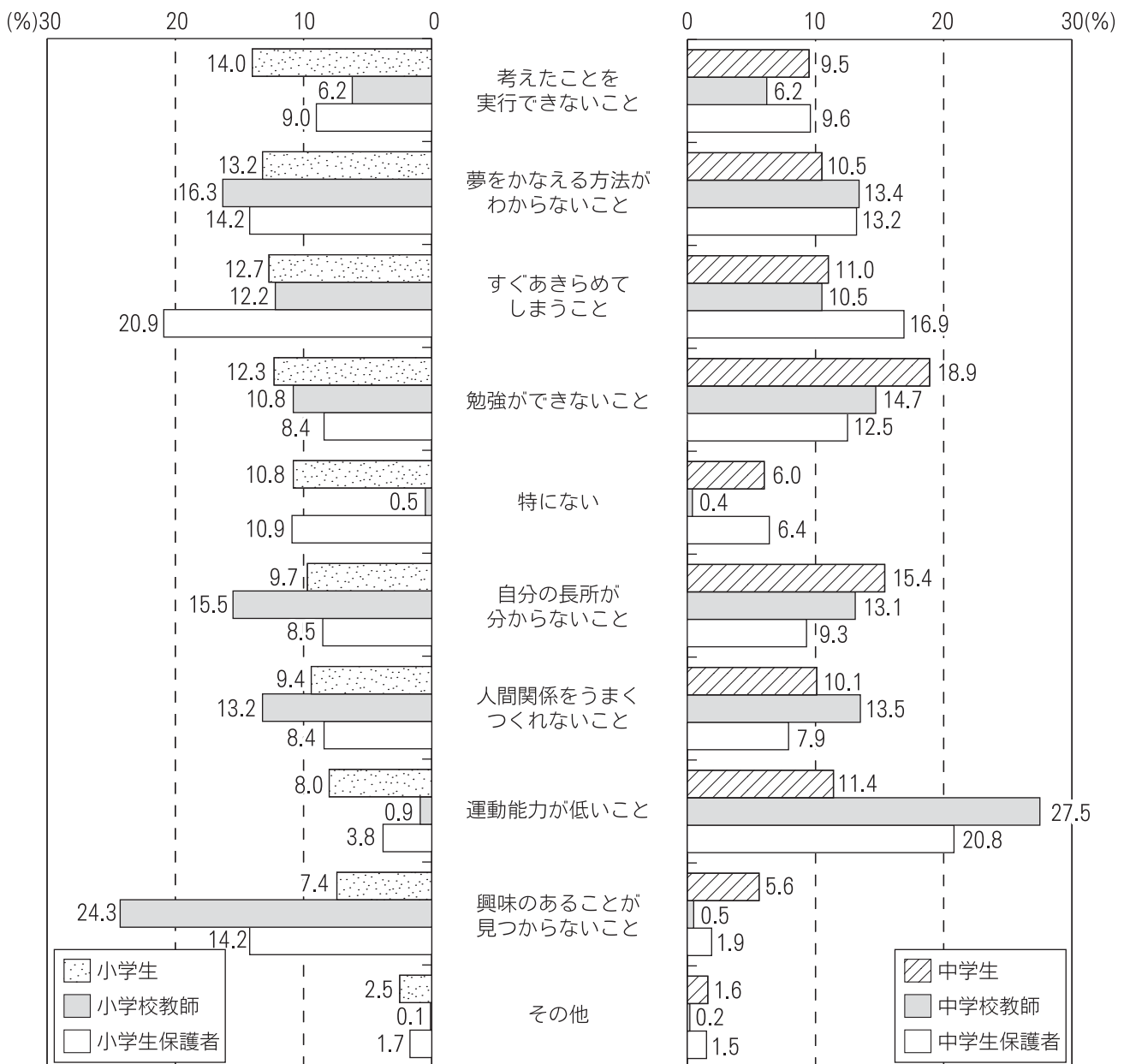


以前の小中学生と比べて、以前にも増して将来に「やりがい」ということを意識している子どもが増えています。特に、「社会や人のために役立ちたい」という思いが強い子どもが増えているようです。また、以前と同様に、「健康で楽しい家庭を作りたい」という思いは、高い割合のまま維持されているようです。家族や人のために尽くしたいと思う気持ちが、以前にも増して、子どもたちの将来へのエネルギー源になっているようです。



## ② 将来に向かって

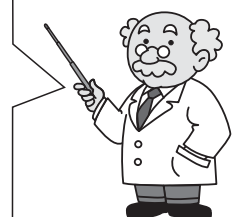
- ◆ 将来の夢をかなえるために困っていることは何ですか。(小学生・中学生 複数回答)
- ◆ 児童・生徒が、将来の夢をかなえるために困っていることは何だと思いますか。(小学校・中学校教師 複数回答)
- ◆ お子さんが、将来の夢をかなえるために困っていることは何だと思いますか。(小学生・中学生保護者 複数回答)



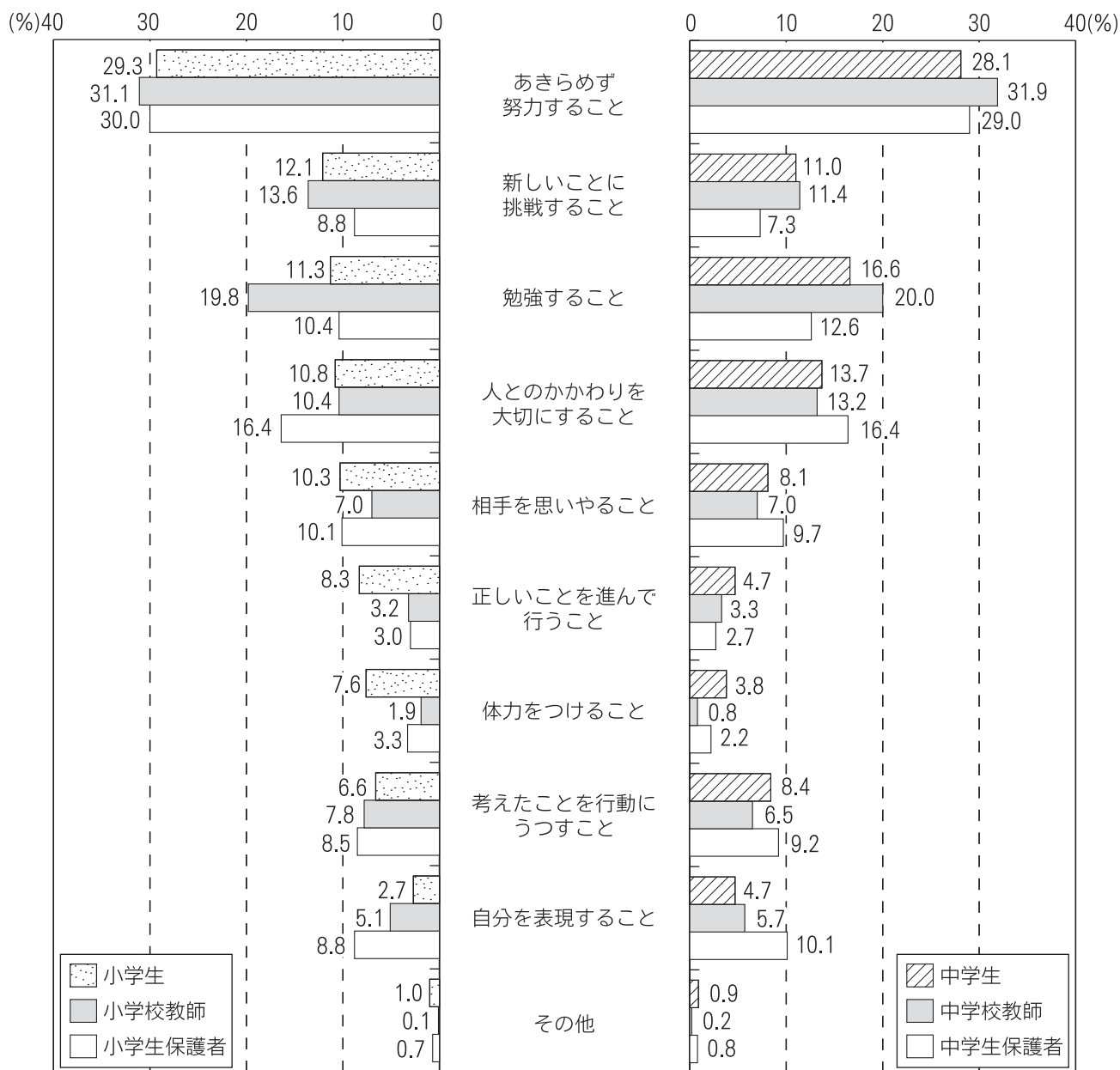
夢をかなえるために一番困っていることについての考えが、子ども、保護者、教師の間で差があることが分かります。

小学生では、「考えたことを実行できないこと」「夢をかなえる方法がわからないこと」の割合が高くなっています。一方、中学生では、「勉強ができないこと」「自分の長所が分からないこと」の割合が高くなっています。

教師や保護者は、子どもがどんなことに困っているかをしっかりと見極め、その夢に近づくような支援や応援をすることが大切です。



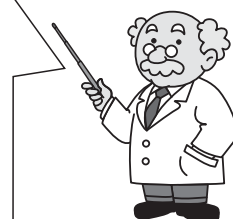
- ◆ 将来の夢をかなえるために必要なことは何だと思いますか。(小学生・中学生 複数回答)
- ◆ 児童・生徒が、将来の夢をかなえるために必要なことは何だと思いますか。(小学校・中学校教師 複数回答)
- ◆ お子さんが、将来の夢をかなえるために必要なことは何だと思いますか。(小学生・中学生保護者 複数回答)



夢をかなえるために一番大切なこととして、子ども、教師、保護者ともに「あきらめずに努力すること」をあげています。どんなことがあってもあきらめないことが、夢をかなえることにつながっていると考えているようです。

また、「新しいことに挑戦すること」「勉強すること」「人とのかかわりを大切にすること」の割合から見て、日々の生活の中で、仲間とともに学び、様々なことに挑戦することが、夢をかなえるために必要だと考えているようです。

小学生に比べ、中学生は「勉強すること」の割合が高くなっています。中学生になり、自分の夢をかなえるために勉強しなければいけないという意識が高まっているようです。



## あ と が き

一宮の教育白書「明日を生きる子どもたちのために」は、学校や家庭生活における子どもたちの意識や実態、保護者、教師の意識をあきらかにすることを目的として編集されてきました。

近年、子どもを取り巻く状況は大きく変わりつつあります。道徳の教科化、英語教育の充実、アクティブラーニングの提唱など、矢継ぎ早の教育改革がなされようとしています。そんな中私たち教師は、学びの主体である子どもたちが、どのような活動を「楽しい」と感じ、どのようなときに「がんばろう」と思っているのかを知っておく必要があるのではないのでしょうか。

そこで、今回はテーマを『やる気』とし、学校や家庭での生活の中で、“子どもがやる気になるのはどのような活動か”と“他者との関わりで、子どもがやる気になるのはどのような関わり方か”に焦点を当て、アンケート調査を行い、分析した結果をまとめました。

今後も私たち教師は、保護者とより一層の共通理解を図りながら、教育活動をすすめていく必要があります。子どもたちの心の内面を知り、問題解決に向けた取り組みの糸口として、少しでも役立つことを願っています。

なお、この冊子を作成するにあたって、保護者ならびに児童・生徒の皆様、先生方にはアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。編集委員一同、心よりお礼申し上げます。

2016年11月

一宮市教職員組合 教財部長

荻野 靖浩

### 「2016年度明日を生きる子どもたちのために」編集委員

加藤 春雄 (丹陽中)	橋本 勝裕 (開明小)
岸田 浩代 (葉栗中)	鹿島 理恵 (浅井中小)
小澤 晃慶 (大和中)	小澤 政貴 (貴船小)
大杉 紗織 (西成東部中)	西脇 健吾 (萩原小)
小田 剛司 (中部中)	荻野 靖浩 (尾西第一中)

#### アンケート有効回答者

小学5年生	1,354名	小学保護者	1,276名	(42校)
中学2年生	657名	中学保護者	616名	(19校)
小学校教師	758名	中学校教師	463名	



<表紙絵によせて>

楽しいからやる気が出る。  
やる気があるから応援したい。  
未来輝く子どもたちの幸せを願って・・・

表紙デザイン 暮 石 彩

2016 明日を生きる子どもたちのために  
編集発行 一宮市小中学校PTA連絡協議会  
一宮市教職員組合  
印刷所 (有)メディアポート  
2016年11月印刷  
2016年11月発行